純愛　～ありがとう～

葉月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
純愛　～ありがとう～

【Ｎコード】
Ｎ７４４７Ｚ

【作者名】
葉月

【あらすじ】
突然お兄ちゃんができちゃったおんなのこのはなしです

家に美形がやってきた

もし、突然兄ができたらあなたはどうしますか…？
しかもそれがあからさまにもてそうなイケメンだったりしたら！！
普通の女子中学生としてはどうしたらいいんですかぁっ。

時は数時間前にさかのぼります。
いつも通り学校から帰ってきてドアをあけるとお母さんと若い男の声…。
「ほんと、唯(ゆい)くんはかわいいわねぇ」
「いえ、そんな…ほんとありがとうございます。お母さん」
お母さんっっ！？なんで！？どうして！？どうしたの！？
おそるおそるリビングにいくと———サラサラの髪に切れ長の目やさしそうな笑顔のあたしの学校の高等部の制服をきた美少年がおりました
「ちょっとお母さん！？どういうことよ、これは！」
「あらぁ、おかえり、愛莉。今日からうちの息子になった、唯くんよ」
！！

美形の事情（前書き）

なんかありがちな感じですみません…

美形の事情

「はじめまして愛莉ちゃん。今日から山本家にお世話になる山本唯です」
「は…はじめまして。山本愛莉、城門学園中等部2年1組41番ですっ」
「愛莉、お父さんの親友の息子さんよ。この間の地震で観光に行っていたご両親が…」
「お母さん、重い話は置いといて…。オレ、この明日から城門高校の高等部に転校するんだ。よろしく――なんで、愛莉ちゃんが泣くんだ……」
「ごめんなさい…明日からよろしくお願いしますっ」
逃げちゃった…自分の部屋に…だって、悲しすぎる
『コンコン』
ノックと同時に唯さんが入ってきた
「愛莉ちゃん、オレはね、親父とお袋が死んですごく悲しかったよ。でも、二人は一緒に死ねたんだ。せめてバラバラじゃなくてよかったと思ってる…だから、泣かないで」
「…はい」
「それで、オレ高等部1年1組なんだけど担任ってどういうひと？」
「松本先生…40歳くらいの男の先生で、社会の先生。太ってるけど、話はおもしろいです」
「そうかー。結婚してる？」
「してない、うえにはげてます」
「アラフォーで未婚で太ってて、はげ？残念な感じだなー」
「アハハ、そうですねー。松本先生はおもしろいですけど、学年主任の二階堂先生はこわいです。」
「もしかして、数学？」

「国語です」
「残念、はずれたか。じゃあ、夕食を食べに行こう。今日はカレーだって」
唯さんが出ていくと部屋が少し暗くなった感じがする。明日、あんなかっこいい人が転校してきたら話題になるだろうな…

噂の美形の騒ぎ（前書き）

こんばんは！いまサブタイトルの付け方になやんでいます。なのでサブタイトルがめちゃくちゃです…

噂の美形の騒ぎ

「愛莉ー！！今日一緒に登校してきた人だれよ？すごいかっこよかったよね！？」
「そーそう！！すごく目立ってた」
朝、教室に入ると案の定にクラスの子に質問攻めにされた。
「お兄ちゃん。きのうできたの」
「！？」
さらっと爆弾発言をしてみた。みんな一瞬固まったけど次の瞬間
「えー？なにそれ！？」
「いいなーかっこいいお兄ちゃん」
「紹介してよ！！」
「えーと…そろそろ来ると思うよ？ホームルーム前に学校案内するっていっといたし」
タイミング良くドアが開いて
「愛莉ちゃん！！」
「唯さん。クラスの子たちが――って、え！？」
「「「「きゃーーー！！！！！」」」」
やっぱ、唯さんはすごいなー。
「身長何センチですか？」
「体重は？スリーサイズも！？」
「写真撮っていいですか？」
なんか、すごい騒ぎに……案内はできないかな…
『キーンコーンカーンコーン』
予鈴だ。
「というわけで、愛莉ちゃんせっかく約束したのにごめん。またね！」
唯さんは嵐のように去っていきました。

試験

一学期中間試験もまっただ中の今日この頃……なんで試験とかあるんだろ…なくていいよね？なくなればいいのに！

試験勉強に追われて頭が壊れ気味です…とはいえ、試験も明日でおわり！おわる！！やっと！！！

私も唯さんもずっと部屋で勉強してるのでお母さんがさみしそーです。

『コンコン』

「愛莉ちゃん、いる？」

唯さん？

「はーい、どーぞー」

「夜遅くにごめんね？シャー芯あまってない？」

「ありますよー、はい。明日は自由ですね」

「そうだね。でも、ここら辺のお店しらないんだよね…」

「案内しますよ」

「ホント？ありがとう！今度よろしく。」

試験終わりました！！英語がホント難しくて！過去形とか、現在進行形とか、わけわかんない。

学校から家に帰ってドアを開けるとお母さんと唯さんの話声（デジャウ）

「と、いうわけで、わたし今から3泊4日で北海道旅行に行ってくるから、家と愛莉よろしくね。学校も試験休みだし大丈夫でしょ」

「わかりました。行ってらっしゃい」

「お母さん！？いきなりどうしたの？」

「友達に誘われてねー。じゃ、行ってくるね」
ハハ去っていきました。
「愛莉ちゃん、お店案内してくれるっていってたよね。いまでもいい？」
「いいですよー。駅前でも行きますか？」
「うん、ありがとう。洋服がなくて困っててねー。っていうか、そろそろお兄ちゃんって呼んでほしーな」
ハイ？
「どうしてですか？」
「家族がほしいんだ…」
あ…そっか…じゃあ
「一緒に買い物いこう、唯お兄ちゃん。夕食も買わないとね」
そういうと唯さんはうれしそうに笑った

お買いもの

「唯さん、何買うんですか？」
「あれ？唯さん、に戻っちゃうのか。」
「外では。だって、似てないから、わけありですって言いふらしているようなものですよ？」
「そっか。愛莉ちゃん、ちょっとこのお店入っていい？」
いいながら唯さんは、メンズのお店に入って、Ｔシャツとパーカーとジーンズを即買いした
「試着もせずに買っていいんですか？」
「うん。愛莉ちゃん、ガソリンスタンドとファーストフード店とカラオケどこが好き？」
「…カラオケ？」
「じゃあ、バイトはカラオケにしようかな。」
「バイト、するんですか？っていうかそんな簡単に決めちゃっていいんですか？」
「決断は早いほうなんだよね。考えたって変わらないし。後で面接受けにくから夕飯任せていい？なんか買ってね」
「いいですよ。もう買うものないなら今から言ってきても。」
「ありがとう。お礼になんか買ってね」
千円札を二枚を残して唯さんは去って行きました

４時間後―１９時
「ただいまー、遅くなってごめんね。…ごめん、疲れっちゃって夕食たべれそうにないから冷蔵庫入れといてくれる？」
唯さんふらついてるんですけど、だいじょうぶかな？
「それはいいんですけど、だいじょうぶですか？」

「――」

「って、え…熱！？」

過去（前書き）

唯視点です

過去

立ち上がる…だるい……
「…ごめん、愛莉ちゃん…ちょっと部屋行くね…」
言い残して、部屋に入ってベットにたおれこむ
眠い

親父？お袋？どこいくの？ダメだよ…そっちは地震が！
ねぇお願いこっちに来て！！
こっちだよ！！！

「…ん…夢か」
「お兄ちゃん…おはよう。大丈夫？うなされてた。もう朝十一時だよ」
「愛莉ちゃん！？…コホっ…」
額に愛莉ちゃんの指が当たる。冷たい
「熱…高いね…体温計とスポーツドリンク持ってきておいたから」
「ありがとう…いつから部屋にいたの？うつっちゃうでしょ」
「大丈夫。おかゆ食べれる？」
「ごめん…お腹すいてなくて…」
「うん。ゆっくり休んでね」
そういって愛莉ちゃんは部屋を出て行った
大きくなったな…愛莉ちゃんは覚えてないけど幼いころに何回か会ってる。オレが5歳の時に引っ越して以来会ってなかったから驚いた。オレの記憶の中では愛莉ちゃんは3歳のままだったから…
可愛かったよ？子犬っぽくて。そういうとこはいまもあんま変わってないけど。

「コホ…ゴホッコホ…頭痛い…」
まずいかも。なんか熱上がってる感じするし……３９．４度？
知らないほうが良かった気がする…傷とかも見ると痛くなるじゃん！
…メール？
『お兄ちゃん、私ちょっと友達と遊んでくるね！！お大事に。お鍋にお粥があります。よかったら食べてね　愛莉』
外行ってくれるのは助かる…移したくないから
広い部屋…高校生のしかも、養子の部屋で１０畳は広すぎるよね？高校も行かせてもらってるし…バイトして返したかったんだけど…情けないな。
お腹すいた。お鍋にお粥？
「うわっ……クラクラする…」
立った瞬間めまいを感じて座りこむ…お粥はあきらめるか
「はぁー、ホント情けない」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7447z/

純愛　～ありがとう～

2012年1月7日00時46分発行